

資料 1



第18回 日本水大賞

2016日本ストックホルム青少年水大賞

水の惑星—地球を形容するのにこれほど適した言葉はないでしょう。水は自然界を循環し、地球上あらゆる生物の生命を育み、生存を支え、汚染を浄化してきました。特に日本においては古来より美しい水を誇り、私たちはその恩恵に浴してきました。私たちはこの美しい水を次世代の子どもたちに受け継ぐことができるのでしょうか……。

平成10年6月、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる21世紀の日本と地球を目指し、水循環の健全化に寄与することを目的として、日本水大賞顕彰制度委員会（委員長 東京大学名誉教授、国連大学上席顧問 高橋 裕氏）が公益社団法人日本河川協会内に設立されました。第7回から日本水大賞委員会に名称を変更し、第12回より委員長は日本科学未来館館長で宇宙飛行士であった毛利衛氏となり現在委員13名及び特別委員6名で構成されております。

また、前回より国土交通省とともに主催者として協働しております。

日本水大賞委員会は、水循環の健全化に寄与する個人、諸団体の地道な研究活動を応募、顕彰し、広く全国に紹介、啓発するための「日本水大賞」を主催し、第1回日本水大賞の表彰式・受賞活動発表会が平成11年3月に秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ盛大に開催されました。また秋篠宮殿下におかれましては、平成17年5月より日本水大賞委員会名誉総裁にご就任されております。

第1回日本水大賞は大賞の他大臣賞として建設大臣賞、国務大臣環境庁長官賞（当時）が贈られました。その後第3回（平成13年5月）から厚生労働大臣賞、第6回（平成16年6月）から農林水産大臣賞及び文部科学大臣賞、そして第8回からは経済産業大臣賞が加わり、水環境行政に関わる全ての6省から贈られるまでになりました。また、第4回（平成14年5月）からはスウェーデンで開催される青少年を対象とした権威ある国際コンテスト、ストックホルム青少年水大賞に参加する日本代表の選考を兼ねた日本ストックホルム青少年水大賞（青少年研究活動賞から改称）が設けられました。

2004年の日本代表、沖縄県立宮古農林高等学校はアジアで初めての大賞（グランプリ）を獲得しました。また、2006年は京都府立桂高等学校が準グランプリを獲得しました。

今年で第18回となる日本水大賞は、これまで応募総数、延べ3155件に達し、大賞以下表彰された個人、団体は、のべ248件を数えます。後援をいただくのは、環境省、厚生労働省、農林水産省、文部科学省、外務省、経済産業省の他、関係34団体。協賛企業は5社1団体であり、日本における水環境問題を研究活動する全ての個人、団体を対象とした唯一の賞として、多くの活動される方々の励み、目標となり、広く国民に水循環の健全化の重要性を啓発する機会として発展を遂げてきました。



対象範囲

(1) 対象となる活動の内容（活動分野）

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

①水防災：

- ・水災害に対する安全性の向上に資する技術を開発し、普及する（ハイテク機器、文化財、ライフライン等を水災害から守る）
- ・雨をためる、しみこませる、ゆっくり流す
- ・河川の伝統的技術や災害体験の継承等啓発・普及

②水資源：

- ・水を大切にす
- ・山や川などの水源地を大切にす
- ・異常渇水のときに被害を少なくす

③水環境：

- ・川や湖沼、海などの水をきれいにす
- ・水辺の生き物やそのすみかを大切にす
- ・水辺や水のある地域づくり
- ・水に関わる体験活動

④水文化：

- ・水や川や湖沼、海などに対する敬意と親愛を高める
- ・水や川や湖沼、海などの文化を創る、又は広める（芸術、文学を含む）
- ・地域における水文化を発掘、又は普及させる

⑤復興：

- ・上記①から④に該当する諸活動のうち、地域の復興の視点から実施されるもの
- ※ その他、上記①～⑤に関係する国際的な連携・技術協力・学会活動



(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して、以下の賞を授与し、広く公表します。

①大賞【グランプリ】（賞状・副賞 200 万円）

水循環の健全化を図る上で、活動内容が幅広くかつ社会的貢献度が高く、総合的見地から特に優れたものに対して授与します。

②大臣賞【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】

【経済産業大臣賞】（賞状・副賞 50 万円）

各省の行政目的に関係の深いものの中から、特に優れたものに対して授与します。

③市民活動賞【読売新聞社賞】（賞状・副賞 30 万円）

市民活動の中から、特に優れたものに対して授与します。

④国際貢献賞（賞状・副賞 30 万円）

活動の範囲や効果が国際的であり、人・文化・技術の日本との交流も含め、大きな功績をあげていると考えられるものに対して授与します。

⑤未来開拓賞（賞状・副賞 10 万円）

国内外を問わず水分野における新たな展開を対象とし、特に優れたものに対して授与します。

⑥審査部会特別賞（賞状・副賞 10 万円）

活動がユニークなものなど、審査部会において特に表彰に値すると判断されたものに授与します。

⑦日本ストックホルム青少年水大賞（賞状・副賞 20 万円及び国際コンテスト参加の渡航、滞在費用

20歳以下の高校生または同等の学校に在籍する生徒又はその団体での研究活動から優れたものに対して授与します。その他、審査部会で表彰に値すると判断されたものは、委員会での承認を経て、優秀賞及び審査部会特別賞が授与されます。



ストックホルム青少年水大賞

SJWP: Stockholm Junior Water Prize

スウェーデン王国の首都、ストックホルムは「北欧のヴェニス」ともよばれ、街は多くの島々から形成されており、美しい水辺空間を古くから市民は誇りとしてきました。

その街において、世界の水資源の研究開発及びより良い水保全の取り組みを目的に、1991年ストックホルム水基金（SWF: Stockholm Water Foundation）が設立されました。それらの研究、活動を奨励するためにストックホルム水大賞（SWP: Stockholm Water Prize 以下 SWP とする）、ストックホルム産業水大賞（SIWA: Stockholm Industry Water Award）が設けられ、その授与、水に関する研究機関の交流を行う組織としてストックホルム国際水協会（SIWI: Stockholm International Water Institute 以下 SIWI とする）が発足し、1994年には SWP の一環としてストックホルム青少年水大賞（SJWP: Stockholm Junior Water Prize 以下 SJWP とする）が生活の質の向上及び水環境における生態系の改善に資する優れたプロジェクト（調査研究）を行った若い研究者を対象に贈られることになりました。

設立当初はスウェーデン国内だけを対象にしていたが 1997 年から国際賞となり広く世界から優れた活動を表彰し、若い研究者の大きな励みとなるようになりました。

そもそもスウェーデン王国はノーベル賞発祥の国であり、科学技術の進歩に対する関心、尊敬の念が高く、冬に行われるノーベル賞同様に夏に行われるこれらの賞を

「夏のノーベル賞」「水のノーベル賞」と

位置付け、その授賞式、晩餐会もノーベル賞と同じ会場、同じ形式で行われており、SWP はカール 16 世グスタフ国王陛下が、SJWP は皇太子ヴィクトリア王女殿下がそれぞれ自ら授与されるなど、ノーベル賞同様の尊敬と格式をもって行われております。

日本におきましては欧米において活躍されていた権威ある日本人研究者の提言により若い日本人研究者、とりわけ年齢的に対象となる高校生の参加が模索され、「日本水大賞」を主催する日本水大賞顕彰制度委員会（当時）の置かれた公益社団法人日本河川協会が日本代表を推薦する国内予選を行う組織として 2001 年に SIWI と契約調印を行い、SJWP の日本組織機関として活動を開始し、2002 年に国内予選である青少年研究活動賞（当時）を受賞した埼玉県立深谷第一高等学校の生徒を初エントリーとして派遣し、絶大な歓迎をもって迎えられました。

2004 年に派遣された沖縄県立宮古農林高等学校（当時）が、邦訳「宮古島の命の源である地下水の保全」の研究において、それぞれの国内予選を勝ち抜いてきた参加 26 ヶ国の中において見事グランプリを獲得する栄誉に輝きました。2006 年には、京都府立桂高等学校が水稻、麦などを用いた超節水型苗栽培法について発表し、準グランプリを獲得しました。



2015年は東京都立多摩科学技術高等学校が日本代表に選抜され「黄金井の水環境～「ハケ」と共に生きる水～」について発表を行い、惜しくも賞には至りませんでした。高い評価を得ました。

前記の通り1997年から国際賞となったSJWPの受賞国の歴史は、第1回アメリカ 第2回ドイツ 第3回スペイン 第4回アメリカ 第5回スウェーデン 第6回アメリカ 第7回南アフリカ 第8回日本 第9回南アフリカ 第10回中国 第11回アメリカ 第12回トルコ 第13回カナダ 第14回アメリカ 第15回シンガポール 第16回チリ 第17回カナダ 第18回アメリカとなっており、欧米諸国の受賞実績がほとんどの中で第8回はアジアにおいて初めて日本が受賞し、第10回には準グランプリを受賞いたしました。宮古農林高等学校の研究活動はその研究内容の素晴らしさはもとより、8年に渡る研究の成果を生徒自身が実践的な地域普及活動に地道に取り組んできたことを発表し、多くの審査員の感心を得ました。更に、審査書類、プレゼンテーションの全てを英語で行うコンテストにおいて、言葉のハンディを乗り越えての受賞でした。ジュニア版「水のノーベル賞」であるSJWPを日本の高校生が受賞した事実は日本の高校教育の高い水準、日本の基礎研究の裾野の広さを世界に知らしめた結果となり、国内においても実業高校の実践的教育機関としての価値を大いに高めました。

SJWPが行われるワールド・ウォーター・ウィークの約1週間、エントリーされた各国の生徒は市内のユースホステルで相部屋の団体生活を、ファシリテーター（現地の学生）の指導のもとで過ごします。英語を母国語としない生徒達は最初こそぎこちないものですが、各国の文化を紹介するパーティーなど様々な催しが準備され、やがて若者同士大いに打ち解けあい、多くの友人を作ることができます。また、複数の世界的権威である水環境研究者の講演を聞く機会が与えられます。彼らは帰国後各国で環境問題の研究、活動のリーダーに成長するべき人材であり、ここでの学習、国際交流、文化交流の機会が彼らにとって得がたい貴重な体験になったことでしょう。

